

[主催] 同志社大学 一神教学際研究センター

[共催] 同志社大学 神学部・神学研究科

CISMOR 公開講演会

レナード・バーンスタインと  
ユダヤ教／キリスト教関係：  
反ユダヤ主義との闘い

【講師】

**Hillel Levine** (ボストン大学 教授・歴史学者)

2010年8月7日(土) 13:00～15:30

同志社大学 新町キャンパス

臨光館2階 R201 教室

○入場無料・事前申込不要  
英語講演（逐次通訳あり）

○問い合わせ先

同志社大学 一神教学際研究センター(CISMOR)

TEL. 075-251-3972

E-mail: [info@cismor.jp](mailto:info@cismor.jp)

HP: <http://www.cismor.jp/>



## 【プログラム】

- |      |       |             |
|------|-------|-------------|
| 1) 講 | 演     | 13:00-15:00 |
| 2) 質 | 疑 応 答 | 15:00-15:30 |

講 師： Hillel Levine  
ボストン大学 教授・歴史学者

司 会： 小原 克博  
同志社大学 教授

---

## 【講師紹介】

### ■ Hillel Levine ボストン大学 教授・歴史学者

ハーヴァード大学にて PhD を取得、その後イェール大で教鞭をとり、現在はボストン大学で宗教学と社会学を講ずる。欧州の近代化に遭遇したユダヤ教の歴史社会学的研究の専門家であり、現代の人権問題、宗教・民族紛争の解決に深くコミットしている学者でもある。

レヴィン教授の学者としての学術研究の本領は、ユダヤ学と社会学の総合的研究である。その出発点は、18、19世紀ポーランドの近代化によってユダヤ人がこうむった差別と迫害であり、当時のポーランドに出現したユダヤ教のメシア運動フランク派の分析、ポーランドのユダヤ人問題を歴史的に克明に記述した『反ユダヤ主義の経済的起源』、そして、中世ユダヤ教最大の哲学者・律法学者マイモニデスの学問論・科学論『マイモニデスと諸科学』などがユダヤ学の分野の主要著作である。

また、歴史学の専門家として、近世ポーランドのユダヤ研究を起点にしつつ、その一貫した問題関心である近代化に伴う社会変動と宗教の変容、現代における国際紛争と人権問題の実践的解決を学術的に発展させ、ワシントンのホロコースト博物館の企画、ボストンのユダヤ移民の変容と共同体の解体を捉えた『あるユダヤ人共同体の死』、リトアニア滞在で触発された『スギハラを探し求めて』（邦訳あり）によって、共感的理解に基づく個人研究、精神分析的手法などを総合的に駆使したノンフィクションにも挑戦している。

その一方、2001年には、世界の紛争と暴力に対する解決と和解のための NGO (International Center for Conciliation, Brookline, MA, USA) を組織して、所長として精力的に活動中である。特に、同じボストン大学で教鞭を取る作家で、世界の人権抑圧に対する解決と和解の活動を精力的に展開するエリー・ヴィーゼル氏に深く傾倒し、その思想と活動を共有しており、宗教的、民族的、社会経済的要因による諸紛争の解決のためのワークショップの企画、諸政府や関連団体への諮問を行ってきた。これまでのワークショップ・講演・諮問の諸活動の実績は、米国、ノルウェー、オランダ、イタリア、ドイツ、モロッコ、インド、カンボジア、韓国、日本に及ぶ。